

# 家庭保育と施設保育の相互作用

## — 序 報 —

小 嶋 謙 四 郎 (早稲田大学)

こどもの探索・遊びのコンピテンスは、乳児期に形成されるアタッチメント システムと関係し、幼児の発達臨床では、これらの行動システムを発達の正常の行動的指標としている。

最近の研究によれば、こどもの家庭における親との関係の安定性が、保育施設の保母との関係に影響し、こどもの家庭外保育の体験が、家庭の親子関係に作用するとされ、両者の相互作用の視点が必要とされている。

この研究は、乳児の探索・遊び行動場面に観察される行動を指標に、母子システムと保母—こどもシステムの相互作用についてとりあげ乳児保育の指針を得ることを目的とする。

今回は、初年度で、乳児行動の観察、行動カテゴリーの整備、コードリストの改良などについて検討をつづけており、報告の段階にないので、ここでは、本研究の有力な技法として、現在、研究開発中の探索・遊び行動、親和、アタッチメント、多動、凝視・凍結、依存、攻撃、逃避・自己刺激、自閉、の、臨床型の推移系列のアナログ化-ETHOGRAM-試案を紹介する。

乳児行動の観察法、ETHOGRAM の作成手続き、行動の推移行列の検定法は別紙のとおりである。

紹介資料の作成の手続きは、つぎのとおりである。

### 1) 対象：

東京都練馬区立保育園 A, B, C に在園するこども 22 名 (男児 17, 女児 5) で、月齢の平均は、12.1、SD. 3.42、(男児の平均 12.1、SD. 3.56、女児の平均 12.2、SD. 2.93) である。最小月齢は 5 ヶ月で最大は 16 ヶ月である。

### 2) 観察方法：

ひとり、ひとりのこどもの行動について、観察者 2 名によって、20 分間連続観察 (10 秒単位) をおこなった。観察時間は、午前 9:00 - 11:00 の間で、観察場所は、保育室である。観察の期

間は、61 年 9 月 - 10 月である。

### 3) 整理手続き：

(1) 20 分の観察記録を 10 秒単位ごとに、5. 多動、4. 凝視・凍結、3. 探索・遊び、2. 親和、1. アタッチメント、-1. 依存、-2. 攻撃、-3. 逃避・自己刺激、-4. 自閉、-5. 眠り、の 10 タイプに評定し、行動タイプの推移行列表を作成した。22 名のうち、観察記録の不備または 20 分の観察時間が確保出来なかった理由で 9 名が除かれ、13 名について、整理をおこなった。

(2) ひとり、ひとりのこどもの 10 の行動タイプの推移行列表から、それぞれの行動タイプの連関の傾向を解析するために、先行行動×後続行動の頻度のマトリックスを作り、cell ごとの期待値と  $\chi^2$  値を求めた。

(3) ひとり、ひとりのこどもの 20 分間の行動タイプの推移経過 (10 秒×120) をグラフ化するために、推移行列表にしたがって、キーボードから入力した。

(4) CELL BY CELL TEST の結果から、多動、親和、アタッチメント、依存、逃避・自己刺激の 5 臨床型について、期待値より高頻度をしめしたこどもを抽出した。

別表は、CELL BY CELL TEST で、高頻度をしめしたこどもの数である。重複があるので 13 名を越える。

13 名のうち 11 名が探索・遊び×探索・遊びの cell に集中している。なお -4. 自閉、-5. 眠りは観察されていない。

なお今後の予定として、母子のアタッチメント関係を保育現場で観察評定する方法について検討する準備をすすめている。

以 上

## 観 察 法

1. ターゲットを選ぶ
2. 連続観察時間は、20分間とし、観察単位は10秒とする。
3. 観察時間内に生起するすべての行動を記録する。あらかじめ10秒のコールサインを吹き込んだカセットテープをイヤホンから流しながら記録用紙に記入する。
4. 記録方法は、記録用紙に記入するがメモブック（イベントレコーダー）を活用してもよい。
5. 観察の対象は、ターゲットの乳児の行動のエピソードであるが、つぎの着眼点に留意する。

- A. 顔； 微笑む 笑う 顔をしかめる 真顔 プレイフェイス
- B. ボーカライゼーション； バブリング クライミング ぐずる 声をたてて笑う 叫ぶ 歌う プレイノイス 単語・言葉をいう
- C. 目と手と口； チラリとみる みつめる 手をのばす さわる つかむ ひっぱる 押す 振る 叩く こする 引っ掻く 投げる 落とす 動かす 転がす 廻す とり出す 入れる 開ける 閉じる 吸う しゃぶる なめる 噛む くわえる
- D. からだの動き； 顔を左右上下に動かす 手をふる 手を叩く 腕をあげる / おろす 腕をのばす 足をあげる / おろす 手足をばたばたさせる からだを前後左右上下に揺する 指をつかう / 指さしをする
- E. ロコモーション； はいはいする 転がる あとずさりする つたいあるく 歩く 走るとぶ 昇る おりる 滑る
- F. peer-relation； 他児の身体に手を出す ・さわる たたく・ぶつ 押す 髪の毛をひっぱる キスをする なだめる 逃げる / おいかける おどす rough & tumble
- G. caregiver-relation； 保母の位置から50cm以内にいる / 以外から接近する 身体を接触させている 手を 頭・顔・肩・背中・膝に置く 膝によじのぼる・顔を埋める・座

る しがみつく・もたれかかる 後を追う 抱っこをもとめる / いやがる 叩く・押す 髪の毛をひっぱる キスをする

- H. person-toy-relation； おもちゃをみせる・差し出す・受け取る 貸す / 貸さない 奪いとる 共有する / 独占する 一緒に遊ぶ
- I. feeling & mood； 興奮している 緊張している いきいきしている 面白がっている 楽しんでいる うちとけている 安心している 落ち着いている 退屈している 疲れている 厭がっている ぐずっている イライラしている 怒っている 恐がっている 嫌っている 避けている 閉じこもっている 無関心 ぼんやりしている
- J. self-stimulation； sucking rocking head-banging 奇妙な行動

## FTHOGRAM の作成

1. 10秒単位の行動を、コード リストに基づき評定する。
2. デジタルに変換した行動連鎖をコンピューターに入力し、グラフを作成する。

### コードリスト

5	多動・興奮・注意散漫
4	凝視・凍結・高い緊張
3	探索 / 操作・注意の集中と持続
2	親和的行動・peer / stranger に向けて
1	アタッチメント行動・保育者に向けて
-1	依存行動・attention-seeking/help-seeking
-2	攻撃行動・frustration 反応
-3	逃避行動・自己刺激行動
-4	自閉的行動・無関心・デタッチメント
-5	眠り・まどろみ

## 行動の推移行列

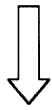
(transition matrix)

- 10秒単位の行動連鎖を先行と後続の推移としてとらえ、推移の頻度を推移行列にまとめる。
- CELLごとの期待値と、 $\chi^2$  値をもとめる。
- 期待値が5以下でないCELLについて、1項ずつ検定を行う。(CELL-BY-CELL TEST)
- 5%水準(自由度 1)で有意に高い/低い頻度の推移をチェックする。

### 推移行列の検定例

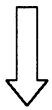
		後						
		4	3	2	1	-1	-2	合計
	4	1	0	0	0	1	0	2
	3	0	31	1	7	1	1	41
先	2	0	2	22	1	0	0	25
	1	1	6	1	15	4	0	27
	-1	0	2	1	3	15	0	21
	-2	0	1	0	0	0	3	4

上の表は、先行行動(コード)に後続する行動(コード)の行動タイプごとの頻度のマトリックスである。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



こどもの探索・遊びのコンピテンスは、乳児期に形成されるアタッチメント システムと関係し、幼児の発達臨床では、これらの行動システムを発達の正常の行動的指標としている。

最近の研究によれば、こどもの家庭における親との関係の安定性が、保育施設の保母との関係に影響し、こどもの家庭外保育の体験が、家庭の親子関係に作用するとされ、両者の相互作用の視点が必要とされている。

この研究は、乳児の探索・遊び行動場面に観察される行動を指標に、母子システムと保母こどもシステムの相互作用についてとりあげ乳児保育の指針を得ることを目的とする。

今回は、初年度で、乳児行動の観察、行動カテゴリーの整備、コードリストの改良などについて検討をつづけており、報告の段階にないので、ここでは、本研究の有力な技法として、現在、研究開発中の探索・遊び行動、親和、アタッチメント、多動、凝視・凍結、依存、攻撃、逃避・自己刺激、自閉、の、臨床型の推移系列のアナログ化－ETHOGRAM－試案を紹介する。

乳児行動の観察法、ETHOGRAM の作成手続き、行動の推移行列の検定法は別紙のとおりである。